

とくのう 村人のために荒野を水田に変えた篤農家



みも ういよもん
水毛生伊余門 (1815~1890)

1815年(文化12)野々市村(野々市市本町)に生まれた水毛生伊余門は、幼少の頃から学問にはげみ、農業のかたわら読み書きや算術などを学びました。

40代になった伊余門は、村民の利益のため雑木林や荒地などを開墾して水田を増やすことを目指しました。開墾事業は、はじめ私益をはかる計画として村民から疑われましたが、新しい水田は村に渡すことを約束して村民の協力を得ました。

開墾は1854年(安政元)自費を投じて諏訪野の一角(住吉町地内)から始め、館ノ跡や山川なども進め、1859年(安政6)までに三町三反余り(約3.3ha)の新田を造成しました。

同じころ、貧村として年貢の減免を受けていた太平寺村では、藩からの助成を受け、住宅地を土質の悪い土地に移し、土質の良い住宅地の新田造成を計画していましたが、資金不足のため断念寸前の状況でした。これを知った伊余門は資金援助を行い、七反余(約0.7ha)が新田になりました。1869年(明治2)の新たな土地の開墾でも多額の金銭を投じて、六反余(約0.6ha)の新田が造成されました。

荒地の新田開発だけでなく、桑を植えて養蚕を奨励するなど、適地適作を村民に勧めた伊余門は、産業の振興への大きな功績によって、1878年(明治11)に国から藍綬褒章が贈られました。

水毛生伊余門の新田開発地と費用

新開場所	新開反別	新開面積 (㎡)	新開着手年	新開完成年	新開費用 (新貨換算)	現在の価格 (米価換算・約7000倍)	
野々市村地内	諏訪野	79畝26歩	7,921	安政元年3月	安政元年11月	1,787円	約1,250万円
	館ノ跡	110畝16歩	10,962	安政4年3月	安政6年11月	2,780円	約1,946万円
	山川	87畝19歩	8,691	安政4年3月	安政6年11月	1,975円	約1,383万円
	御蔵藪	17畝21歩	1,755	安政4年3月	安政6年11月	412円	約288万円
	長吏川	9畝17歩	949	安政4年9月	安政5年4月	207円	約145万円
	背骨	35畝3歩	3,481	安政5年7月	安政6年10月	789円	約552万円
太平寺村地内	屋敷田歩寄	71畝5歩	7,058	安政2年正月	安政2年3月	1,307円	約915万円
	松原	64畝9歩	6,377	明治2年3月	明治2年7月	1,450円	約1,015万円
合計	475畝26歩	47,194			1万707円	約7,494万円	

(『野々市町史 通史編』に加筆)

(※14000円/約2円)

おんたくひ 恩徳碑

幕末から明治初期、太平寺地内の新田造成の際、伊余門が資金提供など援助したことに、太平寺の村人はいたく感激しました。

この石碑は、1879年(明治12)、太平寺の村人が伊余門の人徳を顕彰するために建てたものです。現在、この石碑は太平寺の白山神社境内にあります。



恩徳碑 (太平寺白山神社)

碑文

夫□□而不望其報土君□尚且難之況於農商乎農商而有此行可謂之君子也哉加賀国石川郡太平寺村有官有林以其樹蔭頗妨耕稼方藩政之日村民請開墾以為田明治二年得□時村民貧弱不能支貴以為憂会野々市駅農有水毛生伊余門者任俠富□財憫村民如此奮然任開墾元事不出一年而功成以得良田三千步許伊余門乃請村民□国法開墾者為地主吾今當為地主然憫汝等之窮故以地与汝宜歲耕報余十年間以來三石村民□□日不唯命之從今茲四月村民□其恩德欲建碑以紀事來請文于余□嘉其義學有似君子故為□□贊之銘曰

太平寺原 有樹榛□ 三朝斬伐 田疇成鱗 其恩其德 永矢弗諼

明治十二年四月 石川県第二師範学校教諭 永山平太撰

恩徳碑 碑文